

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の入居者へのケアが理念に沿っているかをスタッフと共有するようにしている。そのことがスタッフのモチベーション維持向上に繋がるように取り組んでいる。	職員一人ひとりが事業所理念を共有し、利用者の個々の生活史を大切にした支援に取り組んでいます。また、認知症予防カフェ等の地域活動を通し、事業所が地域にとって有用な社会資源となるよう努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「地域に開かれた施設作りを目指す」という理念に対し、地域行事へ入居者の方と一緒に出かけている。施設行事等は地域のボランティアさんに協力をして頂いている。	地域の小・中学校の文化行事や高校の収穫祭、お祭り、認知症予防カフェ等へ積極的に出かける等、事業所が地域の一員として日常的に交流していることが広報誌(写真等)により確認できました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、施設運営の評価やアドバイス頂いている。また、地域の方々への認知症の理解を深めて頂くために、市から委託を受け「認知症予防カフェ」を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域密着型事業所としての役割として、運営状況や身体拘束対策等の対策を確認しあっている。	事業所の取り組み状況を報告し、出席者それぞれの立場から意見を頂いています。特に、身体拘束に関する対策等、タイムリーな課題についての活発な意見交換が行われていることが会議録等により確認できました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヵ月に1回開催される介護保険事業者連絡会に参加することで、地域の問題、課題等に対し意見交換を行っている。	日常的な連絡・相談に加え、定期的に関係される運営推進会議や介護保険事業者連絡会、認知症予防カフェ等において事業所及び地域の諸課題についての意見交換が行われています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常行為の中で、スタッフの言葉や行動を振り返り、生活する環境を常に検討している。また、月1回身体拘束適正化委員会を開催しており、不適切なケアが行われていないか評価している。	スピーチロックを含む、職員の言葉や行動をユニット会議等で検証したり、身体拘束適正化委員会等で評価することにより、拘束をしないケアに取り組んでいることが諸記録より確認できました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者を含め、スタッフ全員の必須研修として、身体拘束についての研修会に参加している。また、事業所内にも身体拘束ゼロ宣言を掲げて常に意識するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を理解し必要なご家族には提案が出来る準備はある。認知症の理解とともに、地域包括支援センターが主催する権利擁護を学ぶ研修会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談、申し込みを事前にいただき、重要事項説明書を含め、提供するケアの内容を理解して頂きながら説明を進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、ご家族とスタッフとの会話の中から、施設への要望を聞き出すことに務めながら交流をしている。苦情との判断の場合は法人管理者で検討する体制をとっている。	利用者一人ひとりのノート(自分史ノート)に施設での生活状況を記録し、面会時等に家族に説明すると共に施設への思いや要望等を聞き、それらを運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場で働いているスタッフ全員が意見や提案を気軽に出来るように気づきシートを用いた業務改善を行っている。入居者へのケアと、スタッフのモチベーションの向上に繋がる運営を目指している。	現場の問題点や課題をスタッフ全員が気軽に提案出来るように、気づきシートを用いた業務改善が行われています。そして、このことが職員の運営に対する参加意欲の向上にも繋がっていることが分かりました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特定処遇改善加算の算定や、年次有給休暇取得率を推奨している。スタッフの誕生日は、年次有給取得は100%となっている。また、県外その他施設研修実施や、学会での研究発表といった自己啓発の推奨をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としての組織力を活かし、定期的な内部研修会に参加している。また、必要な内容については外部講師を招いたりし研修には力を入れている。外部研修も可能な範囲で、業務としての参加を推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市介護保険事業者連絡会や日本認知症グループホーム協会の協会員として、事業所同士の意見交換や交流、他事業所への施設見学を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時のオリエンテーションで、ご本人とご家族の話から生活歴や本人を知ること、ケアへの反映に繋げている。居室担当者を設けており、施設キーパーソンとして家族との良好な関係性づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には、見学の際にグループホームとはといった部分の説明から入り、困りごとと不安なことを等を伺った上で契約のお話をさせていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時は環境変化による不安を出来る限り少ないように、ご本人の生活や生活情報をしっかりと聞き取り、介入初期の段階から関わる時間や顔なじみの関係をつくることを優先に支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事をアセスメントし、日常生活の中で活躍できる場を見つけ、役割のある生活に繋げている。日常作業の中で、生活リハビリを積極的に働きかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日常の報告を行い、ご本人様がどのような状況か知って頂く様に対応している。また、遠方で面会が難しい家族へは、月一回発行している便りに、担当から日常の報告を載せお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の馴染みの場所には、外出支援が可能なタイミングに出来るように、本人と相談しながら支援に努めている。	馴染みの美容院に行ったり、自宅に帰って仏壇に手を合わせる等の外出支援に努めています。また、地域の行事に参加したりしながら旧交を温めていることが確認できました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置に配慮し、少人数の中でもそれぞれの関係性を配慮した対応を行っている。また、入居者同士がお互い関われるように、日常の家事活動を通して良好な関係が作れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになった入居者様の葬儀では、必ず弔辞を読ませて頂いている。退居されたご家族にも、施設行事の参加を声掛け関係性を継続させている。長期入院による退居の場合も、再入居の受け入れは行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様本人の生活についての希望や、困っていることを出すことができる入居者様に対しては、話し合う機会を設けている。難しい入居者様のい対しては、可能な限り要望をキャッチできるようにスタッフ全体で取り組んでいる	日頃の言動、表情から利用者の思いや希望を汲み取り、ミーティング等でスタッフ全員が共有し、ケア計画に反映させています。また、あくまでも利用者本人の立場に立った支援に努めていることが記録等で確認できました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活については、担当ケアマネジャーやご家族から情報を聞き取りを行っている。入居による環境の変化から、ご本人に戸惑いがなく不安の少ない生活ができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方は特に設定しておらず、ご本人ペースを大事にしている。重症度の高い方へ対してはケアに優先の対応をさせていただいている。健康管理においては、月4回、運営母体の病院から往診、必要に応じて、電話やメールで相談を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者を設けて、アセスメントを行い、それをもとに計画作成担当者が介護計画書を作成している。日々の課題については、その都度カンファレンスを行っている。	職員の気づきと利用者・家族の思いや要望等、日々の状況を支援記録等に基づき留め、アセスメントにより課題を整理し、介護計画に反映させています。また、介護計画の見直しも3か月毎に行っていることが確認されました。	利用者のケアについて、とても素晴らしい取り組みがされていますが、その取り組みに対し、家族がさらに理解と信頼を深めていくような働きかけが期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録については、電子カルテに記載し、特変等のトピックスは全体にあげて周知している。周知漏れがないように、申し送りノートで別冊で用意している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各入居者様ごとのニーズに応じた個別ケアを重視している。誕生日等は、本人の希望を聞き、施設内外で食事をしたりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域からも声を掛けて頂き、積極的に行事に参加している。また、法人内託児所児童や家庭の都合により勤務に同伴してくる職員の子供との交流は入居者の楽しみとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様の健康管理、身体変化においては24時間体制で運営母体の病院と同敷地内の老健施設に協力を依頼している。また、認知症の周辺症状が重度化している方へ対しては、認知症の専門医と連携し、お薬等の指導を頂いている。	予め、利用者一人ひとりの救急情報カードを準備し、緊急時の情報提供に活用しています。また、24時間体制で併設の老健施設や運営母体の病院と連携し、適切な医療が受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職の医療的不安な部分を少しでも解消するために、医療連携先である同敷地内の老健施設看護師に都度相談し、対処法等分かりやすく説明してもらっている。また、常にオンコールの状態をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院ができるよう、入院先への訪問やICに参加し、担当医との連携を図っている。退院後も継続的な往診治療により、安心して生活が送れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	小さな状態変化を見逃さないように、日頃からの気づきしている。看取りケアは、現在体制が整備出来ないため行っていないが、運営母体の病院と連携しながら、入院の場で看取りケアに入られさせてもらっている。	重度化や終末期のケアについては、本人・家族の思いや意向に沿った支援が行われています。看取りについては、事業所単独ではなく、運営母体の病院(療養型含む)と連携する等、トータルとしての看取りケアを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、運営母体の病院の看護師による勉強会や市消防本部が開催する救命講習に参加している。また、緊急時は両ユニット連携し、病院や医療連携先の看護師への連絡体制を整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間を想定した火災総合訓練を、消防署の指導のもと行っている。また、施設メンテナンスのための計画停電や断水時を活用した、災害時の対策訓練も行っている。又、市防災士会にも登録し、研修に参加したり、協働した訓練にも取り組んでいる。	消防署の指導の下、日中・夜間を想定した火災総合訓練が行われています。また、大雪災害に備え、停電や断水等を想定した「災害時炊き出し訓練」も行われていることが記録、写真により確認されました。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの入居者様に応じた言葉使いや対応を心がけ個別ケア実践している。また不適切な言葉使いや、業務を優先したケアが行われている状況などが見られた際には、スタッフ同士が互いに注意し合える職場環境に作りに取り組んでいる。	人格を尊重した丁寧な言葉かけに努めています。特に、トイレ誘導時や入浴の際にはプライバシーに配慮した支援がなされています。また、不適切なケアについて職員間で互いに注意し合える職場環境作りにも努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との日常会話の中から表出された想いを、敏感に感じ取るように心掛けている。想いに対して、出来る限り対応ができるよう、スタッフ間での情報を共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせた支援を心がけているが、人員配置上や受診の付き添い等により、現場の職員が不足し業務優先のケアになる場面もある。入居者中心の生活を目指した業務改善に取り組んでいかなければならない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で選べない方に対しては、選ぶことを提案し希望の洋服を着衣していただいている。また、モーニングケアはご自身で出来るように、蒸しタオル等を準備したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好の調査は入居時に伺い、提供する食事に反映している。また、本人の希望や誕生日には、食べたいメニューや外食の対応も行っている。食事の準備や後片付けなどできることを、入居者に行って頂いている。	併設事業所の管理栄養士の献立に基づき食事が提供されています。利用者の誕生日には、好きな食べ物や外食の希望にも対応しています。また、できる範囲で、職員と一緒に準備や片づけを行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては、それぞれのご飯の量や、食形態についての配慮を、同法人内の管理栄養士に相談して食事の提供を行っている。また、水分に対してはそれぞれが1500ccを目標として飲むことが出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方にあった口腔ケアの支援が行えるように、口腔内のチェックを法人内の歯科衛生士に依頼して、スタッフへ指導をしてもらっている。口腔ケアが自力できる方も仕上げの確認は行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ交換の身体的な負担を少なくすることも念頭に置き、高機能パッドを導入した快適性を損なわないケアを実践している。また、定期的にメーカーの方から助言をもらい、それぞれの方にあった排泄ケアに取り組んでいる。	本人の状態に応じた個別支援に努めています。業者による研修会等を開催し、排泄に関する個別のアドバイスを頂く等、利用者一人ひとりに合った排泄ケアに取り組んでいることが確認できました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から水分を多めに提供している。出来る限りお薬に頼らない自然な排便を誘発する為、腹部マッサージや運動を促し、便秘予防に取り組んでいる。また、日中はトイレに座る習慣を付け、腹圧をかけ排泄行えるように促し排泄している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一定の間隔で入浴ができるよう、入浴担当者が声掛けを行っている。毎日、入浴希望がある方へは、希望に添った対応をしている。状態に応じて、一般浴槽、リフト浴槽を使い分けている。また、馴染みの入居者同士ゆっくり入浴ができるよう、大浴場も準備している。	原則として、2日に1回の入浴を行っていますが、本人の希望に添った毎日の入浴にも対応しています。また、一般浴、リフト浴、大浴場等本人の状態や希望に応じた入浴も実施されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように、適度な時間の休息を日中取り入れている。夜間は安眠に繋がるように物音や照度などに注意している。安眠の妨げになるオムツ交換も、長時間パッドを使用し最小限に抑えた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	過剰な服薬にならないように主治医と連携を図り、施設看護師が常に内服薬の管理を行っている。また、新しく服薬する薬については、状況を報告し指示・相談を密に行っている。また、入居者毎の処方箋は電子カルテで常にスタッフが確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で出来る事を設け、それぞれの役割に偏りが無いように心がけている。嗜好品としては、本人が好きな食べ物や飲料を、近隣のスーパーへ一緒に買い出しに行き、外出の楽しみも同時に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は、思い付きドライブや買い物に行ったりしている。また、事前に計画を立てて季節を感じられる場所へ行ったりしている。	利用者の体調等に配慮しながら、近隣への散歩や少人数での思いつきドライブや買い物等が行われています。また、四季に応じた、季節を感じられる場所への外出支援も行われていることが広報誌(写真等)等により確認できました。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が難しい方が殆どである為施設で管理を行っている。希望に応じて、ご家族の了承を得て、少額を持って頂いている入居者もいる。また、金銭の預かりには必ず預かり証を発行し、安心して預ける事ができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話の際は、ご本人に代わる事が出来るように支援している。また、希望のある入居者に対しては携帯電話の所持も許可している。また、毎月施設便りを出すことで、ご家族への近況報告を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りを入居者と一緒に作成し、見やすい場所に飾っている。また、ADLに合わせた席の配置やテーブルの高さの変更も行っている。施設の農園では、野菜の植え付けや水収穫を通し、季節感を感じる事ができる取り組みも行っている。	一緒に作成した季節毎の飾りが見やすい場所に飾られています。また、利用者のADLに配慮した席の配置や高さの工夫等、居心地の良い空間づくりに取り組んでいます。冬の寒さに対応するため、館内、室内の温度管理には細心の注意が払われています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の個性や相性を考慮した、席配置を随時、検討し対応する事で、共有のテレビ等を同じく空間で観賞することが出来る。但し、一人の空間も必要になることも考えられる為、その際は、居室での対応をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家庭で使用していた家具等を最小限で配置している。この環境を整え少しでも自宅に近い空間を作ることで、リロケーションダメージの軽減に努めている。	本人、家族と相談しながら、使い慣れた家具や仏壇、神棚等を持ち込む等、居心地よく過ごせる居室づくりに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室を色分けした表示にすることで、見当識への支援に繋げている。また、廊下等の動線確保とリハビリの観点から手すりやソファを配置しリスクの軽減に努め、生活リハビリに繋げている。		